

利用・用途・応用分野

内視鏡を用いた医療処置や検査、炎症部位、腫瘍部位、検査対象部位への薬液の投与

目的・課題

内視鏡は、低侵襲性で患者負担を抑えられることから広く医療現場で使用されている。内視鏡的粘膜下層剥離術後の残存する粘膜下層部位や消化管組織の炎症部位等に薬液を注入する穿刺デバイスは、筋層への穿孔や薬液漏れの危険性があり、正確に穿刺しないと十分な薬剤を注入できない問題点がある。

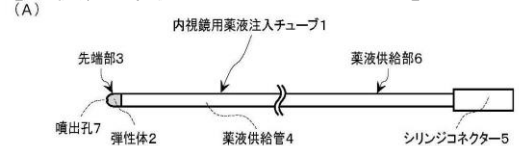
従来の内視鏡用散布チューブでは粘膜下層内に薬液量を注入することが困難なため、消化管穿孔を防止し、安全に消化管組織に薬液を注入できる内視鏡用薬液注入チューブが望まれている。

消化管穿孔や薬液漏れを防止し、消化管組織に薬液を簡便に注入できる内視鏡用薬液注入チューブを提供することを目的とする。

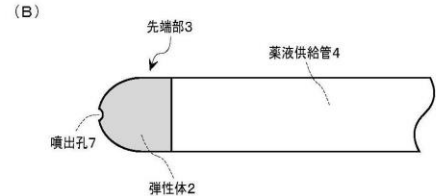
解決ポイント

薬液供給管の先端部に噴出孔を有する弾性体を備えることにより、先端部を消化管組織に押し当てても消化管穿孔や薬液漏れを防止することができ、その状態で薬液を噴出することで、目的組織に薬液を簡便に注入することができるという知見に至り、本発明を完成した。

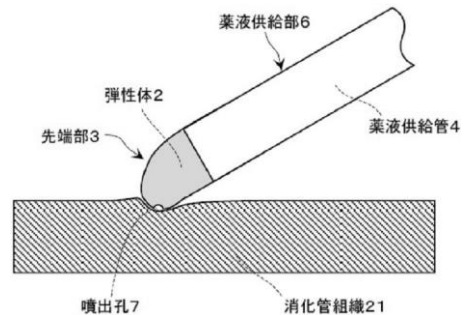
【内視鏡用薬液注入チューブの正面図】



【先端部を拡大した正面図】



【内視鏡用薬液注入チューブを消化管組織に押し当てた時の先端部正面図】



研究概要・アピールポイント

- ◆注射針を用いずにチューブを軽く押し当てただけで局注が可能である。
- ◆粘膜下層に薬液が注入されたことが、白色調の膨隆によって視覚的に確認することができ、壁外にリークする心配がない。
- ◆従来の注射針を用いる方法よりも安全確実に狭窄予防ができると期待される。
- ◆薬液注入時における消化管穿孔や薬液漏れを防止し、安全で簡便に消化管組織に薬液を注入できる内視鏡用薬液注入チューブである

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp